

中秋の名月のもと

富野山猿賀権現例大祭

旧暦の8月14日・15日にあたる9月7日(日)・8日(月)、富野猿賀神社で例大祭が行われました。7日は前夜祭として、グラウンドゴルフ大会を皮切りに、親子で踊る十五夜踊りが開催されました。

十五夜の本祭は、地元富野保育所によるお遊戯、登山ばやし演奏、小学校相撲大会、舞踊(夢幻天舞、健康ダンス「べえ子ちゃん」)、満月仮装踊り大会などのイベントで盛り上がりました。



富野小学校児童



満月仮装踊り大会

また、武田小、消防団、企業などが、豊作や安全などを祈り、大きなのぼりを担ぎながら神社までの道のりを登山ばやしにあわせて練り歩きました。

小学校相撲大会では、武田小をはじめ、中里小、薄市小も参加。個人団体で争いました。この大会は、3人抜きをすれば負けても豪華賞品を獲得できます。中でも2年生の部では、女子選手が奮闘しました。男子選手を次々に破り、見事3連勝しました。会場からは大きな拍手・歓声があがりました。

祭のフィナーレは、満月仮装踊り大会です。今年は15チームがエントリーし、花嫁、ピエロ、えんぶりなどさまざまな仮装をし、各チームは優勝を目指して踊り続けました。

地産地消をよびかけ

青森県フェアに
BBシスターズ登場

昨年、三村県知事と共に県内はじめ、首都圏で青森県産品PRの活動を行ったBBシスターズ。今年もイトーヨーカドー青森店で「青森県フェア」に参加しました。

9月10日(水)のフェアでは、スコップ三味線、知事と一緒に長生きサンバや決め手くんダンスで地産地消と健康をアピールしました。ステージイベント後は、知事と売り場をまわり、生産者や売り場担当と一緒に買い物客へ青森県産品をすすめていました。

鈴木喜代表は「今回で3回目となる青森店ではいつもお客さんに喜んでいただいている。今年もこのような活動に参加できて光栄。自分たちも地産地消を心がけ、健康を維持したい」と話していました。



三村知事と健康ダンス

それぞれの思い 第2回少年の主張大会

町青少年問題協議会が主催する中泊町少年の主張大会が8月28日(木)総合文化センター「パルナス」で開かれました。

大会では、管内各小学校6年生4人、中学校1・2年生4人の計8人がそれぞれの思いを発表しました。

会場には、同じ学年の小・中学生や教員、大会関係者約350人が集まり、発表者を見守りました。開会では、同協議会会長である小野町長が「このような大勢の人前で発表することだけでも大変なこと、とても緊張していると思うが、堂々と発表していただきたい」と激励しました。主張は小学校6年、中学校1・2年の順で行われました。

■小学校の部

中里小6年 古川莉乃

「一歩前進」：学級みんながすすんで発表できるようになってほしい。自信がない、間違いたくないではなく、わからないことがあつたらすぐ聞くようになるべき、そして一歩前進。

武田小6年 工藤陽菜

「心をつなぐ架け橋」：相手の目を見

て心のこもったあいさつ、人を笑顔にする、地域のコミュニケーションとなるあいさつの力を発表。
薄市小6年 野上莉来奈
「本当の友達とは」：2つの競技を掛け持ったことで多くの友達との遊ぶ時



間がなくなった。その中でもそばにいてくれて、安心できる友人の存在があった。

小泊小6年 太田優希

「ふるさとのために」：地域の少子化問題をあげる。保育士の夢をもち、将来多くの子どもたちが住みやすい町にするため、考えたことを発表。

■中学校の部

中里中1年 下山諒夏

「仲間つて…」：中学校に入り、新しいクラスメイトと運動会。団体競技へむけての練習の中で、団結して頑張る仲間の大切さを発表。
小泊中1年 川山雄生

「おもいやり」：自分の一言でケンカしたり不仲になった友人への思い。もう一度関係を修復して前のような友人関係になりたいと発表。
中里中2年 野村一朗

「僕の小さな目標」：陸上部の練習で苦手なメニューがあり、なんでもあきらめずコツコツやるよう前向きに考え方を変えた自分について。
小泊中2年 太田菜月

「250兆分の1」：自分が生まれる確率が250兆分の1であること、つまり奇跡。この命は大切だ。自殺、いじめは絶対にしてはならない。

愛されるキャラクターに

小泊中教員チームへ
優秀作品賞授与

合併10周年事業の一環として行われた中泊町イメージキャラクターデザインの募集で、優秀作品賞を受賞した小泊中教員チームに、9月22日(月)賞状が伝達されました。

この日は、小野町長が小泊中学校を訪問し、チーム代表の梅津教頭へ賞状などが手渡されました。

町長は「町の産業でもある米をうまくデザインしてくれてありがたい。町のPRに役立てていきたい」と伝えました。これに対し梅津教頭は「みなさんから愛されるキャラクターになってほしい」と話しました。



500人で盛大に長寿を祝う

体育センターで
中泊町敬老会開催

敬老の日の恒例行事である中泊町敬老会が、9月15日(祝)に体育センターで行われました。当日は町内各地域から約500人が参加しました。主催者である町長からは「郷土の発展に力を尽くしてくださった皆様に心から感謝します。これからも良きアドバイザーであってください」とあいさつがあり、88歳、ダイヤモンド婚、金婚を迎えた方へ顕彰状を贈りました。今年結婚50周年となった葛西晴一さんは「顕彰を受けることができたのは、町民皆さんや家族のおかげ。これからも健康に留意し、町の発展に寄与したい」と顕彰者を代表して謝辞を述べました。



敬老会の後は昼食を囲みながらの芸能発表会。工夫を凝らした仮装で登場するグループもあり、会場は拍手と笑いに包まれていました。

■88歳長寿者 派立上…工藤源藏、荒関イツ、坂田ふみ系、成田とき系、奈良武夫／派立中…角田文男／派立下…荒関敏隆、加藤勲作／向町上…宮越リシイ、小林トミエ、敦賀政一、珍田フミ、川村フヂエ、長利マツエ、秋元ハツエ、成田はつ、棟方ミサヲ／向町下…金澤チヤ、加藤明子、山崎定繁／五林…古川莊三郎、荒関菊枝／宮川…古川トキエ、小寺キネ、坂田マツヨ／深郷田上…菊池ツセ／八幡…外崎利蔵、福嶋春雄／大沢内…田中春榮／富野…外崎ナミ／豊島…長谷川榮、田中盛義、鈴木ミチエ／田茂木…佐野シゲノ／長泥…工藤イソ、鈴木正治／若宮…高山テル／上豊岡…神たまい、石川キミエ／下豊岡…塚本たまい／福浦…塚本金之丞、松橋金好／竹田…片山フサ／尾別…新岡マサエ、海野澄子、三浦健治／上高根…小野與三郎、葛西アネ、沖崎セツ／下高根…野上幸作、原子きよの、野上キクヨ、野上リセ／薄市上…野上サヨ、成田ツワ／薄市下…小寺トミエ、福士茂三郎、小野キヨミ、小寺由希子、小寺豊治、葛西由蔵／今泉上…三上ツサ、今本キサ、青山リエ／今泉下…青山きへ、今本キミ、三上キセ／ニタ見…大川リツ／花丘町…熊木キセ／若葉町…岩川キヌヒ／新町1…伊藤トネ、澁谷タミエ／新町2…生田キリア、工藤たね／小泊派立…鎌田つや、久保田永太郎、成田みち、藤本貞子、宮原ヨシ、三橋みさを／上町…長谷川徳子／折戸…木津谷ハツエ／下前上…古川ヨネ、後藤ハツ／下前浜…佐藤トミ／温泉町…角田こと、會津ち系

■ダイヤモンド婚(60年夫婦) 派立下…荒関助四郎・時枝／向町上…荒関春男・セツ／宮野沢…山本平治・テツ／大沢内…大川芳春・カセ／上高根…木村幸雄・ツル、小野秋男・ハツエ／薄市下…福士喜次郎・カツエ／今泉上…小山内喜一郎・キクノ

■金婚(50年夫婦) 派立上…秋元常夫・アキエ／派立下…工藤敏雄・英子／宮野沢…林正七・セツエ／大沢内…大川賢一・則／豊島…加賀田武麿・哲子／尾別…宮越一義・ヒサ、宮越粕昭・トセ、葛西健一・ミツ子／上高根…葛西晴一・智枝、木村正・レ子、小野敏雄・哲江／今泉下…青山清一郎・シツエ／新町2…小林一彦・ツイ子／上町…大澤利直・アイ子、藤田三雄・アサコ、藤田功・千多／浜町…駒井正勝・昭江、熊木元治・曠子

緊急時に備え訓練

中泊町海難訓練実施隊が
油除去訓練

中泊町海難訓練実施隊が、9月12日(金)小泊漁港、26日(金)下前漁港で港内での油流事故を想定した油除去訓練を行いました。このうち下前港の訓練では、実施隊副会長の角田下前漁業協同組合長が「いつ起きるかわからない事故であり、訓練が大事になる。我々の漁港の環境を守るためにも取り組んでいきましょう」とあいさつしました。

訓練は港で漁船が給油中に誤って重油を海中に流出させたことを想定しました。現地対策本部を立ち上げ、磯まわり組合のメンバーが中心となり、オイルフェンスを設置しました。海面に広がった油は小型船の乗組員が油吸着マットや中和剤などを散布し、対応方法を確認しました。



社会人を経験

中学校3年生が職場体験

総合的な学習の一環として、中里・小泊両中学校が、9月24日(水)と25日(木)町内企業などで職場体験を行いました。この体験は、自らの将来を展望し、夢や希望を育むこと、正しい勤労観と職業観、社会人として必要なものを身につけることを目的に毎年実施しています。

役場総務課広報係には、中里中から2人の生徒が体験に訪れました。2人は同級生たちの取材や広報づくりを体験しました。



■小泊漁協(小泊中2人)

市場でこの日に水揚げされた魚を氷詰めにする作業などを体験しました。生徒は漁協職員の指示に従い手際よく動いていました。



■小泊保育所(小泊中2人)

活発に遊んでいる子どもたちと一緒に小泊中の2人が遊んでいました。生徒たちには6人の子どもたちが、抱きついたりつかまったりして楽しんでいました。



■ピュア(中里中3人)

調理場などで手伝いをしたり、食品の加工などをしていました。3人とも真剣な表情で作業していました。



■消防署(中里中5人)

消防車両の説明を受けたり、操作・放水訓練などを体験しました。生徒たちは職員の話に熱心に聞いていました。また、担当した消防署職員は「将来この体験を通じて消防士になって欲しい」と期待していました。

私たちがこのページを担当しました

小野喜也くんの感想

僕が役場の広報係で2日間働いて思ったことは、いろいろな所に取材してみても、正直疲れるけどやりがいがあって楽しかったことです。めったに見知らぬ人と接することはないので、自分にとっていい経験になりました。



山本一希さんの感想

私は職場体験で広報の仕事をしてみて難しかったのが、カメラで写真を撮ることです。写真を撮ること自体は好きですが、動いているものを撮ることがあまりなかったので、難しかったです。しかし、取材や記事の作成などためになることがあり、とても良い経験になりました。